

昨年の夏、私たちはカクマ難民キャンプを訪れて、多くの難民の人たちに出会いました。またそこで、一冊の詩集とも出会いました。その詩集は、難民たちがそれぞれの気持ちを集めたものでした。これらは詩は、難民の心の声がストレートに伝わってくるもので、彼らの気持ちがそのまま表現されていました。私たちはこの詩を通して、多くの人々に彼らのことを知ってもらいたいと思いました。単に、難民の置かれている状況を説明して、彼らの立場を理解してもらうのではなく、詩を通して彼らの心の中で感じて欲しいと思ったのです。現在、私たちはこれらの詩を訳して出版社にかけ合い、より多くの人たちに読んでもらえるよう努力をしています。ここに載せた詩は、その中の一つを取り上げたものです。ご意見やアドバイスのある方は、ご協力お願いいたします。(林 佐喜代)

YILMA TAFERE

エチオピア

難民になるまでは教師

どうして帰らないの？

お願い、私に聞かないで
「どうして帰らないの？」なんて
好きでここにいると思う？
2週間分の配給は
わずかな豆ばかり
石鹸すらない生活
マリリアとチフスに悩まされ
風と塵が吹き荒れる
この羨みの中に
ここでは自然が猛威を奮っている。
なんてひどい世界
好きでここにいると思う？
今は古着を探す毎日
もし自分の力で生きることができたら
もし祖国を建て直すことができるのなら
ここにはいないよ
好きでここにいると思う？
妻も夫も子供達も
父も母も兄弟も家族も失って
故郷を慕う気持ちすら消えてしまった。

お願い、私に聞かないで
「どうして帰らないの？」なんて
互に殺し合う人間達
戦争、部族間の争い、宗教対立
そこでは平和、民主主義が破壊され
人間自体がその価値を失っている。
戦争があるとどこに
争いがあるところに
迫害の恐れがあるとどこに
「そして人間の権利すら犯されているところに



イルマさんとチンダさん

民主主義も存在しないところには
私は帰れない。
国を離れなければならない
運命にあったのだ。
時がきたら
私は必ず帰る。
その時までは私はここに居るしかない。

お願い、私に聞かないで
「どうして帰らないの？」なんて
できるのだったら帰っていたよ
世界中の心ある人達よ！
分かって欲しい
過去の記憶を消し去ることは
単純でも簡単でもないってことを
私の心から取り除くことはできない。
私の中にある伝統的文化、感情的な苦痛
そして子供たちに聞いた民話を
決して消えず、決して消えることなく
それらは私の心に深く刻まれている。

私は普通の人と同じ感情を持っている。
自分の価値が傷つけられ、苦しんでいる。
お願いだから私に
「どうして帰らないの？」なんて聞かないで
傷ついた心をさらに傷つけないか
その時がきたら帰るから
一時たりともここにどまってははいない
新しい夜明けがきたときは。

知事より表彰されました

宇 瞳 運営委員

4月18日～25日まで、市民の方々からの寄付と郵政省ポランティア貯金の補助によって私共が行っている、カンボジア農産への「牛の銀行」プロジェクトを視察して参りました。プロジェクトの実施場所は、首都プノンペンから北へ車で2時間ほど行ったコンボンチュナン省です。コンボンチュナン省での初日、4月21日はカンボジア政府から「牛の銀行」を実施しているLWSと私共わがちあいプロジェクトに対して感謝の意として勲章が授与されました。コンボンチュナン省の女性協会に於いて、コンボンチュナン省の第3等知事よりの表彰でした。

その表彰式で、LWSが「牛の銀行」を開始して以来、現在までにLWSから208頭の雌牛、わかちあいからは160頭の雌牛が最も貧しい農民に分配されたとの報告がされました。また、それぞれ23頭、46頭の子牛が既に誕生しており、総計677頭になっているとのことです。コンボンチュナン省第3等知事と女性協会のスタッフの方々、現場の村長らから「まだまだ牛は不足している」という話を聞いているとのことで、今後もこのプロジェクトに対する経済的支援と、新たな試みとして「豚の銀行」についても検討してもらいたいとの要望が出されました。

4月22日の午前中は、現場に密着して活動して下さっている前述の女性協会を訪ね、その組織機構や「牛の銀行」の仕組みについて伺いました。

22日の午後～24日にかけては農村へ出掛け、わかちあいの支援による牛の受益者をインタビューして回りました。そこでまず驚いたのは、農民の生活が想像以上に貧しいものであったことです。雨が降らずにすぐ雨漏りであるところ、あるいは雨の降らないところ、農村にはトイレが全く無いこと、井戸がまだ不足しており安全な水にも困っている家庭があること（そんな家庭は5～10km先まで水を汲みに行く、ある未亡人の家庭では子供4人が男の子も含めて1人も字が読めない等、話を聞けば聞くほど当たり前と思っていた日本の生活と大きなギャップを感じました。

彼ら農民の仕事は、まず第一に米の栽培です。しかし、1世帯当たり0.25～0.5haしかない痩せた土地で灌漑施設もなく作る米は3～10人の家族で食べるだけしかありません。収入にはなり得ないのです。そこで人々は雨期（5月～1月）に漁業をしたり、鶏を飼育して売ったり（いづれも自家用を含む）、椰子の葉で家の壁を作る、竹でバスケットを作ったりする。乾期（12～4月）には大工として出稼ぎに行く・・・等収入を得るために様々な努力をしています。そのようにして得た収入も、年取にして、試算ですがたったのUS\$50（2人家族）～US\$810（10人家族）くらいにしかなりません（わかちあいの牛の受益者は、最



コンボンチュナン省第3知事のラングさん（中央）から授与された、宇さんの胸に勲章



宇さんは、今朝、自分が支援したバクさんに会うことができました

も貧しい人達であるせいもありますが）。この方達にとって、1頭US\$100の牛はとても自分達で購入出来るものではないのです。

さて、牛がどのように彼らの生活に貢献しているかという、以下のようなことが挙げられます。

- 1、糞尿を堆肥として米の栽培に利用出来るため、以前より化学肥料の購入量が少なくて済み、出費が減った。子牛が生まれればもっと堆肥が増えます。
- 2、雌牛を1頭買ったことにより、2頭の子牛が自分のものになれば、人に助けを求めずに自分のしたい時に水田の耕作作業が出来、時間の節約にもなる。それが収入増に結びつくだらう。
- 3、（その背景）水田を耕すには牛が2頭必要である。牛をもちらうまでは、近所の村人に頼んで男性1人と牛2頭を午前中に借りたとすると、そのお返しとして、後日奥さんが丸2日、その村人のために働かなければならなかった。このシステムは、水田を耕した日々に村人の都合が悪いとされてもえなかったり、後日奥さんが2日も時間の拘束を受けるなど、不便なものであった。
- 3、小牛がたかさん生まれたら、財産として自分の子供に分けてやれる。

このように、牛は農民の生活を今すぐというわけではありませんが、徐々に改善しつつあります。牛は農民に希望を与えているのです。